活　動　事　例

「徳島市での住民主体の通いの場への支援」

徳島市

● 経緯・地域の課題

徳島市では生活支援コーディネーターを７人配置していますが、協議体や地域の通いの場等で住民と関わる中で、コロナ禍や高齢化が原因で住民同士の交流の機会が減ったことや、「いきいき百歳体操」等通いの場を開催する団体に対し、行政からの財政的な支援がなく、新規に立ち上げるハードルが高いといった声を聞いていました。

上記課題への対応について、生活支援コーディネーターは住民への通いの場の立ち上げ・運営等についてのガイドブックを作成し、行政では通いの場への財政支援制度を創設することとなりました。

● 取組内容・効果

写真１

○取組①集いの場応援ブックの配布(令和５年９月～)

作成にあたっては、令和4年度に地域の高齢者と子育て世帯との交流の機会をつくるイベント等（多世代交流　干し芋づくり@ふれあい健康館・・・写真１）を連携して開催した「NPO法人徳島の子育てに伴走する会マチノワ」にデザイン等を協力していただきました。

冊子の完成後、各地区のコミュニティセンター等へ行き、各種団体の長へハンドブックを配り、通いの場の立ち上げ等について周知しています。

○取組②通いの場へ財政的な支援（徳島市通いの場介護予防活動支援事業補助金）（令和5年4月～）

高齢者の方が気軽に集える「通いの場」を運営する住民団体へ運営費等の一部を補助します。

運営費補助：上限額20,000円　立ち上げ支援補助：上限額30,000円

申請件数２１件（うち新規立ち上げ3件）（令和5年12月時点）

いきいき百歳体操　１２件、その他介護予防体操など　3件、

認知症対策　2件、その他サロン、趣味活動等　4件

○取組③通いの場への専門職の派遣（徳島市介護職員等研修支援事業）（令和４年度～）

通いの場へ専門職（理学療法士、栄養士、歯科医師、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士）を講師として派遣します（年間2回まで）。

● 今 後 の 展 望

申請件数が少ないので、通いの場の普及啓発を積極的に行うとともに、各種制度についても活動者等の要望を聞きながら柔軟に利用しやすい制度に変えていきたいと考えています。徳島市内全域に、高齢者が歩いて行くことができる場所に通いの場が開設されることと、活動が継続できるよう支援していきます。

住民主体の移送支援サービス「ご近所ドライブパートナー」

阿南市

● 経緯・地域の課題

阿南市西部の山あいに位置する加茂谷地区は、人口約1,900人、高齢化率44.0%の、市内で最も人口減少と高齢化が進行する地区の１つです。令和２年１０月に地区内を運行するバス路線が廃止されたことに伴い、総合事業における住民主体の移送支援サービス（訪問型サービスＤ）の開発に本格的に着手することとなりました。

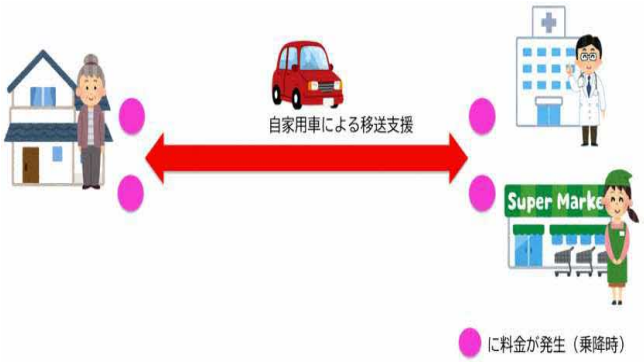
● 取組内容・効果

令和３年５月からの実証実験的モデル事業を経て、令和４年４月より本格的に開始しました。また、令和４年１０月からは対象エリアを拡大（那賀川地区の一部）して実施しています。

■対象者
対象地区に住所を有する下記該当者のうち、介護予防支援事業所が実施するケアマネジメントにより本サービスがケアプランに位置付けられた方
・要支援１、要支援２　・事業対象者（基本チェックリスト該当者）

■対象地区
加茂谷地区・那賀川地区の一部

■サービス内容
サービス従事者の自家用車等による通院及び買い物等に係る移送の前後における乗車前又は降車後の付き添い等を支援します。



■提供回数・提供時間
・週１回以内

■利用者負担額
・乗車又は降車１回当たり１００円（往復送迎の場合、乗降４回４００円）

● 今 後 の 展 望

利用者から好評を得ていることから、今後も継続して事業に取り組み、地域での支え合い活動を推進するとともに、高齢者が住み慣れた地域で生活し続けることができる支援体制の整備を目指します。

「老健局主導型の地域づくり加速化事業を実施して」

上勝町

● 経緯・地域の課題

上勝町は、山間部に位置しており、人口約１,４００人、高齢化率は約５２％と高く、社会資源や移動手段にも限りがある地域です。また、介護サービスにおいても従前相当サービス（通所・訪問）が中心で、地域支援事業においては事業費の上限超過が発生しています。そのような中、地域にお住まいの高齢者が末永く健康で暮らしていくためにはどうしたらよいのか　介護サービスに依存しない地域づくりをするにはどのようにしていけばよいのか 等について、老健局主導型の地域づくり加速化事業を通じ様々な視点から検討していくこととなりました。

● 取組内容・効果

○第１回目（令和５年９月）

厚生労働省、四国厚生支局、アドバイサー、徳島県、地域包括支援センター、町社協、一般社団法人、教育委員会、町担当者が参加し、 上勝町が目指すべき姿について議論を行いました。議論を進めていくなかで、高齢者における生活実態や課題が浮き彫りになり、 車に乗れなくなったり怪我や病気で一度入院してしまうとそのまま施設に入所してしまう 状況があることが見えてきました。

○第２回目（令和５年１２月）

２回目からは、民生委員、老人クラブ、住民も新たに参加いただきました。２班に分かれ 上勝町の目指す地域像の実現に向けて をテーマにグループワークを実施し、地域資源の拾い出しや整理、今後町にあったらいいなと思うもの等の意見を各班出し合い発表、共有を行いました。話し合いの中で、普段あまり気づけなかった地域資源に気づくと共に、町に 虚弱 の方が集まれる居場所が少ないことが分かりました。

○第３回目（令和６年１月）

２回目の後、実際に徒歩圏内で行くことが出来る集落の小さな単位でミニサロンを実施してみました。

３回目では、前回と同じくグループワークにて 上勝町の高齢者がいつまでも元気で居続けられる、居場所とは をテーマに、ミニサロンを今後町全体に広げていくための 作戦 について、みんなで意見を出し合い発表、共有を行いました。

● 今 後 の 展 望

上勝町の高齢者が住み慣れた場所で末永くいつまでも元気に暮らし続けるために、町全体にミニサロンを広めていきます。また、課題として見えてきた地域におられる虚弱の方について、ケア会議において個別事例検討をしっかり行い、身体機能を可逆的に戻していけるように、各関係機関と連携して実施していきます。

「地域づくり加速化事業から目指す町を考える」

北島町

● 経緯・地域の課題

地域ケア個別会議の実施から支援に困難さを感じるケースの検討を行うことがあるものの、積極的な実施はできていないこと、それぞれの個別会議に留まり、地域課題の検討として地域ケア推進会議にまで上手く繋げられていないことを課題に感じていた。

どのように地域ケア会議を進めていけば良いのか助言をいただくため、地域づくり加速化事業を活用し、アドバイザーの方々とともに、本町の地域ケア会議、その先にある地域づくりについて検討する機会をいただいた。

● 取組内容・効果

○第1回支援

アドバイザー、四国厚生支局職員、県職員と北島町の社会資源、地域ケア会議の現状、各事業の取り組み状況の確認等を行い、アドバイザーより情報提供、助言をいただく。

地域ケア個別会議からだけではなく、今自分たちがしている活動の中でも見えてくる地域課題があること、それも含めて話し合う機会を作ることが地域ケア会議であることが整理できた。また、地域ケア会議実施にあたり、住民、民生委員の参加は重要であるが、自分たちが繋がっていると思っていた民生委員との繋がりにもムラや偏りがあることに気づくことができた。

○第2回支援

地域ケア会議の意見交換会として、民生委員や社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、町の関係課職員と協議を行う。地域課題の中で①8050問題、②独居で認知症を有する方の支援、③独居で身寄りの無い方の支援をピックアップし、それぞれの立場で感じていることやできそうなことをあげてもらった。

今回の会を通じて、地域の人や支援者も、それぞれの立場で困難さを抱えており、それを吐き出し意見を交換し合う場として地域ケア会議が求められているものであると感じることができた。

○第3回支援

再度、意見交換会を実施。前回いただいた意見を参考に地域包括支援センターで取り組んだ内容およびこれから皆で取り組みたいことを報告した。グループワークにて前回の会からの参加者の意識の変化やこれから一緒にできそうなことの意見をもらう。異なる立場から自由な意見、アイディアをもらえる一方で、異なる立場だから相手の立場が見えないこともあり、地域包括支援センターがそのパイプ役になる必要があることを学んだ。

● 今 後 の 展 望

今回の意見交換会およびアドバイザーよりいただいた意見を大切にしながら、各事業の取り組みを計画し、できそうなことから地域の方と一緒に取り組んでいきたい。また、この意見交換会を今回だけに終わらせず、具体性を持った地域ケア会議として次年度以降も実施していきたい。

私たちの目指すところが『地域がつながり、“孤独・孤立ゼロ”の町』であること、そのためのステップの一つである地域ケア会議の立ち位置を確認できたので、今後も前向きに取り組んでいきたい。

「フレイル予防への取組を勢いづけるためにできること」

上板町

● 経緯・地域の課題

令和4年度より、かみいた健康プロジェクトとして「フレイルサポーター」事業を開始し、「フレイル予防」の種を蒔きました。

令和5年度は、蒔いた種を、より地域に定着させるにはどうすべきなのかを考え、実行していくことにしました。そこで、「地域のために」と日頃からフレイルサポーターとして活動している皆さんと、徳島文理大学、大塚製薬株式会社、徳島県と共同で、「高齢者が主役」となる「高齢者のためのフレイル予防イベント」を実施しました。

● 取組内容・効果

「STOPフレイル！with徳島文理大学」 開催までの道のり

〇徳島文理大学及びフレイルサポーターとの意見交換会〇

フレイル予防のイベントを実施するにあたり、包括的連携協定を締結している徳島文理大学にご協力いただきました。「フレイル予防」というテーマを基に、フレイルサポーターと徳島文理大学の先生方、学生が話し合う機会を設けました。

参加学部：保健福祉学部理学療法学科、保健福祉学部口腔保健学科、音楽学部音楽療法コース、短期大学部生活科学科食物専攻

〇フレールサポーターと度重なるミーティング〇

意見交換会を経て、フレイルサポーターとしてイベントをどうサポートしていくのか話し合う機会を何度か設けました。

〇大塚製薬株式会社との「フレイル予防川柳コンテスト」の開催〇

高齢者だけでなく、地域の皆さんがフレイルについて考え、そしてフレイル予防に努める一つのきっかけになればと「フレイル予防川柳コンテスト」を行い、「STOPフレイル！with徳島文理大学」にて表彰式を行うことにしました。

〇「STOPフレイル！with徳島文理大学」イベント内容〇

イベントは、より多くの高齢者の方に参加していただこうと考え、敬老会と同時開催にしました。

当日は、徳島文理大学から教職員21名、学生37名の皆さんにお越しいただきましたが、どのイベントにもフレイルサポーターが参加し、徳島文理大学の皆さんからフレイルについて学び、そして地域の皆さんとの交流を深めていただきました。

理学療法学科　鷺教授による講演

口腔保健学科　口腔機能の測定

STOPフレイル！STARTミュージック！in上板

食物専攻による食生活相談コーナー

● 今 後 の 展 望

イベント開催後、地域の集会所や高齢者が集うイベントに参加すると、「この前のイベントよかった～。またしてよ。」と、お声がけいただく機会が何度かありました。

かみいた健康プロジェクトとして立ち上げた「フレイルサポーター事業」。そして、その事業に賛同して集まっていただいた「フレイルサポーター」の皆さんの「フレイル」への想いを絶やさぬよう、フレイル予防への新しい取組を今後も継続していきたいと思います。

「地域包括ケアシステムにおける認知症チームオレンジの役割」

つるぎ町

● 経緯・地域の課題

つるぎ町では高齢化が進んでおり、令和5年10月末現在で48.3%となっています。今後更に人口減とともに高齢化が進行することが予想されます。そうした中、認知症への理解を深め、自助及び互助力を高め、認知症施策推進大綱の基本理念である「共生と予防」に基づいた地域支援体制の確立に向け、チームオレンジを立ち上げ、活動を実施しました。

● 取組内容・効果

【構成メンバー】
・傾聴ボランティアグループ「よりそい隊? 」
・日常生活自立支援事業 生活支援員養成研修受講者
・ひとり暮らし高齢者安心事業 安心生活訪問員
・つるぎ町社会福祉協議会
・つるぎ町地域包括支援センター
・つるぎ町長寿介護課

【取組①】
道の駅貞光ゆうゆう館で
「24時間テレビ　愛は地球を救う」のチャリティー募金への
呼びかけ活動にチームオレンジとして参加しました。
認知症の早期発見・支援について広く住民の方に
知っていただく機会の1つとして、
啓発用ティッシュを配りながら
来場者に認知症への理解を呼びかけ、
認知症があっても暮らしやすい町づくりに向けて
普及・啓発活動を実施しました。

【取組②】
徳島県認知症対策普及・啓発推進月間に合わせ、
世界アルツハイマーデーの前後、9月19日から10月2日の間、
つるぎ町役場分館1階正面玄関にて認知症に関する啓発パネル展示を実施しました。
多くの人に認知症の理解を深めてもらう機会として、世界アルツハイマー月間の概要や
認知症の症状、相談窓口の紹介とともに、「つるぎ町チームオレンジ マリーゴールド」の
概要などについて、ポスター、パンフレットなどを展示しました。

● 今 後 の 展 望

今後さらに認知症に対するイメージの変換や認知症の本人の視点で理解を進めていけるよう、認知症に関して構成メンバーが継続的に学習していく機会を設け、メンバーそれぞれの活動が地域支援へと繋がっている中での気づきなどをチームオレンジの活動として繋げていけるよう事業を進めていきます。

最も身近な「語らいの場」、「心安らぐ居場所」として
～孤独・孤立を防ぐ支え合いと社会参加の機会・活躍の場の提供～

(公財) 徳島県老人クラブ連合会

● 経緯・地域の課題

人口減少や少子高齢化が進展し、人びとの暮らしや地域のあり方も多様化、地縁・血縁による助け合い機能が低下する中、複合化・複雑化した生活課題に対応するためには、制度や分野ごとの関係を超え、地域の資源や人の多様性を活かしながら、人と人、人と社会がつながり合う取り組みが生まれやすいような環境を整えることが求められています。

● 取組内容・効果

老人クラブではこれまで、高齢者の最も身近な「語らいの場」・「心安らぐ居場所」として「健康」「友愛」「奉仕」を柱とした多彩な地域活動の展開により、同世代の仲間とともに、健康で生きがいを持ち、安心して生活を送るための相互の支え合いや社会参加の機会・活躍の場を提供し、健康の維持・増進、閉じこもり・孤立の防止に努めてまいりました。

これらの取組は高齢者個人の活動能力の向上や地域社会の維持にとっても重要な機能を持ち、地域の担い手として行政の補完的役割も担うなど、貴重な地域資源として大きな役割を果たしています。

◆介護予防リーダーの養成とニュースポーツの奨励による健康づくり・介護予防

平成19年度より「介護予防リーダー」の養成に取り組んでいます。これまでに1,700名を超える介護予防リーダーを輩出、各地域で健康づくり・介護予防活動の牽引役として活躍しています。

また、ニュースポーツを通じた健康づくりを奨励し、グラウンドゴルフをはじめとする各種ニュースポーツを紹介し、その普及に努めています。

◆ひとり暮らし高齢者等に対する友愛訪問活動を基盤とした見守り、生活支援活動

友愛訪問活動は昭和59年より取り組んでいる高齢者同士による見守り・助け合いの活動です。「元気にしよるで？」そんな何気ない声かけから始まるこの活動は、ひとり暮らし高齢者の心を癒し、孤独感を取り除きます。

また、ゴミ出しや送迎などの支援、消費者被害など役立つ情報の伝達は、在宅での暮らしを支える一助となっています。

● 今 後 の 展 望

こうした地域社会の期待に応えるためにも、老人クラブ活動への参加が健康長寿にプラスの影響を与えることなど、その有効性や有意義性、多様な効果を広く発信するとともに、高齢者がともに楽しみ、支え合い、喜びを分かち合える仲間づくりをめざして魅力あるクラブづくりに努めてまいります。